

# 所有林の厳しい作業条件と林業経営の難しさ

平成20年度森林組合員アンケート結果より

専任研究員 秋山孝臣

## 1 はじめに

本アンケートは、森林組合系統が今後進むべき方向を探るための参考とすることを目的として、森林組合員の森林・林業経営についての実態・意識等の調査を中心に実施している。本年度は特に、林道・作業道等のいわゆる「道」からの距離や所有森林の地形の急峻さに注目した場合の、森林の維持・管理・経営の困難性などに焦点をあてた。

## 2 所有者の現状と今後の維持・管理・経営

### (1) 今後、継続して維持・管理・経営していける所有林は何割か

第1表のとおり、10割すべて可能との答えは27.5%しかない。7割以上でも53.1%である。所有林のかなりの部分を継続的維持・管理・経営は無理と割り切っていると考えられる。

森林所有者の厳しい林業経営観の前提には、採算の合わない木材価格の低さと所有林の地形的作業条件の悪さがあるのであるが、以下、さらにこの現状の背景を他のアンケート項目で補足説明してみよう。

「林業経営に力を入れている程度」を問う設問では、「林業経営は行っていない(山林は

**第1表** 今後、継続して維持・管理・経営していける所有林は何割か

(単位 %)	
回答世帯数	割合
386世帯(100.0)	
10割(全部)	27.5
7~9割	25.6
4~6割	18.9
3割以下	11.1
わからない	16.8

**第2表** 所有林の境界は明確に分かっているか

(単位 %)

回答世帯数	割合
396世帯(100.0)	
すべて(10割)わかっている	56.8
わかっているのは9~10割未満	20.7
わかっているのは7~9割未満	11.6
わかっているのは5~7割未満	3.8
わかっているのは5割未満	3.8
わかっているのは0割(まったくわからない)	1.5
境界問題の状況全体がどうなっているのか自分でもつかんでいない	1.8

放置している)」が25.7%を占め、最も前向きな選択肢である「林業経営にはある程度力を入れている」19.0%を上回っている。さらに「林業経営している意識があるか」という設問では、「ない」30.0%が「ある」10.4%より大幅に多い。また、「所有林の財産価値」を問う設問では、否定的回答46.8%が、肯定的回答41.3%を上回っている。「林業に魅力を感じているか」という設問では、「感じていない」19.7%のほうが、「感じている」13.4%より多い。さらに、所有する山林の境界について聞いたところ、第2表に見られるとおり「すべてわかっている」との答えは56.8%にとどまっている。行政が森林・林業政策を考える場合や、森林組合が所有者に施業を薦める場合、森林所有者のこの厳しい経営観を考えねばならないであろう。

### (2) 維持・管理・経営していく上での障害

第3表によると、1位が「森林の場所が道から遠いこと」36.5%、2位が所有林の「傾斜が急であること」22.0%、次いで「境界が

**第3表** 維持・管理・経営していく上での障害

(単位 %) )

	割合
回答世帯数	159世帯(100.0)
傾斜が急であること	22.0
森林の場所が道から遠いこと	36.5
境界が明確でないこと	6.3
その他	18.9
わからない	16.4

**第4表** 所有林の距離別割合

(単位 割)

	割合
回答世帯数	389世帯
100m未満	4.6
100～500m未満	2.3
500～1,000m未満	1.1
1,000m以上	0.7
わからない	0.1
計	8.8

(注) 一部未回答があるため、合計は10割に満たない。

「明確でないこと」6.3%となっている。傾斜が急峻であること以上に道から遠いことは深刻な問題と捉えられている。「その他」18.9%の中身は、「小面積である」「後継者がいない」「自家労働でできない」「手入れの費用が大変」等々様々な悩みとなっている。

### (3) 林道・作業道等までの距離

林道・作業道等までの距離を割合で示したのが第4表である。林野庁資料によると一般管理が必要な森林の基礎的アクセスは、林内歩行時間を30分以内としている。最遠林内作業距離500m(高低差200m)で歩行に30分必要とされているが、回答の距離は道から一番近い森林の入り口と考えられるので、最遠距離はさらに遠い。500m以遠の森林計1.8割部分は一般管理が難しいであろう。

(注) 3組合の組合員800名を対象に調査を行ったが、いずれも林業の盛んな地域で、比較的大面積の山林所有者(平均所有面積30.3ha)である。

**第5表** 所有林の傾斜度別割合

(単位 割)

	割合
回答世帯数	385世帯
傾斜のゆるやかな森林 (参考 傾斜度数0～20度未満くらい)	2.2
傾斜が中程度の森林 (参考 傾斜度数20～40度未満くらい)	4.0
傾斜が急な森林 (参考 傾斜度数40度以上くらい)	1.9
わからない	0.2
計	8.3

(注) 一部未回答があるため、合計は10割に満たない。

### (4) 所有森林の傾斜の度合い

所有森林の傾斜の度合いを、全体に占める割合で示したのが第5表である。

傾斜の中程度の森林(参考 傾斜度20～40度未満くらい)が4割で最大である。林野庁資料によれば、アルプス林業でかなり急峻な地形のオーストリアにおける車両系集材作業機械の適応範囲は20度未満とされている。現在、林野庁などのモデルケースでいわれている、車両系の高性能林業機械を駆使した「低コスト林業」を実施するには、わが国の山林の傾斜は大部分が急峻すぎるといえるのではないだろうか。

### 3 今後の課題

林野庁資料によると、ha当たりの路網は日本が16mに対し、ドイツでは118m、オーストリアでも87mと格段の差があり、今後の増設が期待される。

また、地形にあった標準的な高性能林業機械を使った作業システムの確立がわが国では大幅に遅れており、この面においても今後官民あげての努力の必要性が望まれている。

これらの課題の克服が今後のわが国森林の維持・管理・経営には最低限不可欠であろう。

(あきやま たかおみ)